制 吐 剤

名称　　中等度催吐性（オプション・プロイメンド）

1クール　　7日間

Rp	処方	DOSE	1	2	3	4	5	6	7
1	点滴静注　　主 ルート								
	生食注 250mL	1本 /body	●						
	プロイメンド注 150mg	1本 /body	●						
	時間　　30分								
	抗がん剤の投与1時間前に30分かけて								
2	点滴静注　　主 ルート								
	グラニセトロン点滴静注バッグ1mg/50r	1本 /body	●						
	デキサート注射液1.65mg/0.5mL	3本 /body	●						
	時間　　30分								
	デキサートは3.3mgでも可								
	パクリタキセル併用時はデキサートは8mg								

【投与時の注意】

・プロイメンドは血管痛が報告されているため、溶解には可能な限り生理食塩液250mLを使用すること（最低でも100mL以上）

・プロイメンドは抗がん剤投与の1時間前に30分かけて点滴すること

・Rp.2の後に抗がん剤を投与すること

・パクリタキセル使用時はデキサートは8mg（6.6mg×1および1.65mg×1）必要

・オキサリプラチン、イホマイド、イリノテカン、メトトレキサートなどの使用時にはプロイメンド又はイメンドカプセルをオプションとして使用できる。

・day1のデキサート注は、3.3mgでもよい。

・day2～4のデカドロン錠は、状況に応じて投与の可否を選択できる。

・デキサメタゾンを積極的に利用できない場合は、デキサメタゾン2～4日間の代わりに5-HT3受容体拮抗薬2～4日間を追加する。

・このレジメンはday1にのみ中等度催吐性抗がん剤を投与する場合の使用例であり、患者個々の状態や適用レジメンに応じて適切に変更して使用すること

≪中等度催吐性リスクの抗がん剤≫　催吐頻度30～90%

・カルボプラチンAUC4未満

・非カルボプラチン

コスメゲン　ビダーザ　カルセド　イダマイシン　ベスポンサ　イホマイド＜2g/㎡/回　イリノテカン　サンラビン　エピルビシン＜90mg/㎡　オキサリプラチン　トリセノックス　エンドキサン＜1500mg/㎡
シタラビン＞200mg/㎡　ダウノマイシン　ドキソルビシン＜60mg/㎡　ヨンデリス　アクプラ　ピノルビン　トレアキシン　ミリプラ　メソトレキサート≧250mg/㎡　アルケラン

参考：制吐薬適正使用ガイドライン 2015年10月【第2版】一部改訂版(ver2.2)